

## 内村鑑三『地人論』と文化経済学

京大名誉教授・本会顧問  
池上 惇

内村鑑三は、1894年に『地理学考』として刊行した書物に、1897年、改題して再版し『地人論』と名付けた。第2次世界大戦中に『地人論』岩波書店（文庫）1942年として世に出ている。

本書の解説を執筆した鈴木俊朗氏は、『地人論』について、次のように指摘されている。

「著者（内村鑑三）は、……本書を称して『世界の地理を一大詩篇として見たる作である』といふた。」（213ページ）地域や各地を、一大詩篇として見る。この詩のなかに、殖産事業が人々の‘営み’の基盤として息づいている。

この殖産事業の中には、文化産業が位置づけられている。

文化を産業としての営みの中で把握することは、人類史の飛躍といって良いほど、重要な事柄である。それは、文化資源が希少性を扱う経済学の対象として、登場し、殖産事業の中に、文化事業が位置づけられることをも意味したからだ。

ラスキンは、芸術経済学を展開するに当たって、それまでは、経済学が取り上げなかった、景観や建築物の価値、「絵入りの皿」や、聖ロコ教会の天井画の固有価値を取り上げて、固有価値と、その享受能力が商取引による経済発展やコミュニティにおける共同の負担（税など）による公共財の形成と関わる事を示した。

最も貴重な希少資源を経済学の外において、富を論じようとする人々の愚かさを指摘したのである。創造的成果やアイデアの希少性は、後に、R.ロビンズや、W.G.ボウモルが文化経済学として積極的に取り上げる事となる。

内村がラスキンを読んでいたかどうかは不明であるが、各地に固有の文化資源を取り上げようとし、これを殖産事業のありかたにつなげようとする構想をもっていたことは随所に読み取れる。

また、内村鑑三は、政治のための基礎的情報としての地理ではなくて、この地球上に暮らす人々の自然や歴史に対する邂逅、あるいは詩としての「地の理」を展開して見せた。彼は、地球の表層ではあるが人類の‘営み’という意味では深い意味を持つ地理学、地中の構造を知る地質・鉱物学、天空を知る天文学の3者をもって世界の繋がりを認識しようとする「有限なる人知」の素晴らしさと限界を提示しようとしたのである。

「地質学の如く深からず、天文学の如く高からず、現世的にして皮相的な地理学は探り易くて解し易し、然れども其の解し易きが故に吾人これを思うこと稀なり、その解し易きが故に地の理は人の多く究めざる所なり、皮相的たる必ずしも浅薄の意にあらず、慈母の柔顔は彼女心情の現出ならずや、現世的たる必ずしも寸時の意にあらず、現在とは過去と未来を繋ぐ永遠の一部分たるにあらずや。

地理学は実に諸学の基なり、我ら地の事を知らざるにいかで天の事を悟るを得んや、吾人の智識は地を以て始む、未だ腔内五臓の妙器あるを知らざる前に我等は已に山川の子供なり、その阜丘は我等の遊園なり、その溪川は我等の漁場なり、我等に心靈の奥殿を開かるるありて驚愕以てその無限を探らんとするの念起る前に、白頂秀峰先づ我等に詩感を起し、漲流怒涛先づ我等の静思を攪乱す、

地を以て始め天を以て終わる、殖産、政治、美術、文学、宗教は此絶頂絶下両極端に互る人生の階段なり、地を究めずして此階梯を昇らんとするものは夢に雲井に上るが如く、発点なきが故に着点に達するを得ざる人なり。」（12-13ページ）

文化経済学は、まさに、このような状況を踏まえて、産業を考察した。いま、切実に求められている新しい経済がここにはある。

## 2010 年度研究大会—神戸大会—のご案内

2010 年度研究大会の詳細が決まりましたので、お知らせいたします。多数のご参加をお待ちしております。

**大会期日** 2010 年 7 月 2 日(金)・3 日(土)・4 日(日)

**会場** 兵庫県立大学 神戸学園都市キャンパス

**大会テーマ** ミクロ統計データを活用した文化経済学の新たな展開

**参加費** 会員 2,000 円、非会員 4,000 円、学部生 2,000 円  
(学部生は受付にて学生証をご提示ください/大学院生除く)

※参加申込方法につきましては同封の「参加申込書」をご参照ください。

**懇親会費** 5,000 円 ※要予約(当日の参加も可)

### 会場へのアクセス

地図：<http://www.u-hyogo.ac.jp/access/campus02.html>

住所：神戸市西区学園西町 8 丁目 2 番地の 1

最寄り駅：神戸市営地下鉄「学園都市」駅

(山陽新幹線「新神戸」駅/JR「三ノ宮」駅から地下鉄で約 25 分→徒歩で約 5 分)

**注意!** 経済学部・経営学部のある  
「神戸学園都市キャンパス」です。

※JR 神戸駅近くの神戸キャンパスとは異なりますので充分ご注意ください。

### スケジュール

7/2 (金)	18:00-20:00	エクスカージョン ※要予約(別紙の案内を参照)
7/3 (土)	10:00-12:20	分科会①
	12:30-13:30	ランチタイム
	13:40-14:10	会長講演
	14:10-14:15	開会挨拶
	14:15-14:55	記念講演
	14:55-15:35	基調講演
	15:35-16:00	コーヒープレイク
7/4 (日)	16:00-17:45	パネルディスカッション
	18:00-20:00	懇親会
	9:00-11:20	分科会②
7/4 (日)	11:30-12:30	総会(ランチタイム)
7/4 (日)	13:30-16:25	分科会③

※ 13:40-17:45 の午後の部は、一般聴講可/無料

※分科会の終了時間は会によって異なります

※特に宿泊施設案内はいたしませんので、宿泊の予約は各自でお願いします。宿泊施設は、神戸市営地下鉄山手線沿線(新神戸、三宮、県庁前、西神中央)および三宮で地下鉄に接続している JR 神戸線沿線(三宮、元町、神戸)あるいは新交通ポートアイランド線沿線が便利です。JR 舞子駅前からは、学園都市駅行きのバスの便があります。

### プログラム概要

※発表者(発表順)/共同発表者、発表タイトルの順で掲載しています。

#### ①-A 文化・スポーツに関する調査 ●座長：野田邦弘 討論者：勝浦正樹/有馬昌宏

#### 分科会①

7 月 3 日  
(土)

10:00

12:20

浅岡朝泰/  
高木朗義  
北浦康嗣  
大石 希

便益帰着構成表を用いたプロサッカーチームの社会経済評価

加藤優希  
有馬昌宏

学生の実演芸術鑑賞行動の規定要因に関する基礎的研究  
—過去 25 年の学生調査データベースの構築と分析を通して—

加藤広祐/  
清水裕之  
大月 淳  
村山顕人

2008 年公立文化ホールの施設と運用に関する調査概要報告

朝倉由希  
松本文子/  
吉川郷主  
後藤和子

フェスティバルの文化的・社会的・経済的価値についての分析  
—沖縄市キジムナーフェスタ観客への繰り返し質問紙調査を事例として—

①-B 文化と地域 ●座長：清水裕之 討論者：佐々木 亨／中尾知彦

安永行政	地方中枢都市における文化施設を有さない文化芸術振興財団の事業展開の特徴と評価に関する考察
平田 雅	米国美術館における現代美術賞の可能性 ～ The Hugo Boss Prize, Solomon R. Guggenheim Museum における取組を中心に
小林真理	自治体文化行政における制度形成の課題—市民協働の方法と大学の媒介機能—
小島レイリ 赤木 舞	米国の音楽大学における地域コミュニティ活動について—キャリア育成の視点から

①-C 映画・アニメ・若者文化 ●座長：川崎賢一 討論者：増淵敏之／小山友介

葉 宇傑／ 児玉 徹	中国におけるフィルムコミッションの現状と課題に関する一考察 —日本の事例との比較研究から—
李 然／ 児玉 徹	中国におけるアニメ産業の現状と課題に関する考察 —日本アニメ産業との比較から—
安達則嗣	日本のアニメーション産業の現状と将来的課題に関する一考察
梅本 克	若者文化による経済効果の可能性 福岡県「アジアンビート」の事例

①-D 文化施設 ●座長：端 信行 討論者：勝又英明(1) / 大月 淳(2,3)

川本直義／ 清水裕之 村山顕人 大月 淳	公共施設における開かれた利便供与の枠組みに関する研究 —市民吹奏楽団を題材とした考察
工藤啓彦	ミュージアムにおける情報システム活用の今日的意義 —大規模美術館の増改築・設立事例を通じて—
橋本礼人	地域における文化的拠点としての宗教施設の可能性と課題

①-E 文化と産業(The cultural industries) ●座長：後藤和子 討論者：クラマー教授 (キーノートスピーチ有)

Prof. Arjo KLAMER	speaking of Economics: a perspective for cultural economics [ keynote speech ]
Yi-Ching Liu and Shih-Yung Liu	Taiwan's Creative Industries Design Initial Probe
Justin O'Connor	Designing Creative Clusters in China: a Shanghai Case Study

②-A 文化に関する統計分析 ●座長：大和 滋 討論者：西郷 浩／小林好宏

松田芳郎 古隅弘樹	日本の芸術関連企業の構造
有馬昌宏	芸術・文化関連活動の需用構造に関するコウホート分析
周防節雄／ 松田芳郎 永山貞則	世帯類型から見た日本の舞台演奏芸術家の所得分析
勝浦正樹	文化的支出の時系列変動に関する統計分析

分科会①

7月3日  
(土)

10:00  
|  
12:20

分科会②

7月4日  
(日)

9:00  
|  
11:20

分科会②

7月4日  
(日)

9:00  
11:20

②-B クリエイティブ産業と社会 ●座長：池上 惇 討論者：池上 惇(1)/阪本 崇(2,3)/山田浩之(4)

後藤和子 奥山雅之	東京都におけるクリエイティブ産業の集積—理論と政策へのインプリケーション
岡田智博	メディアアートによる社会変革の考察～地域振興からのアプローチ
片上敏喜	食文化の6次産業化を通じた地域固有の食文化の観光資源化に関する研究
保原伸弘	ヒット曲は景気を唄うか? 日本のヒット曲の性質と経済状況の関係Ⅱ

②-C 文化による都市再生・変革 ●座長：澤村 明 討論者：佐々木雅幸

加藤壮一郎	デンマークの「都市・地域」における創造経済の発展について
野田邦弘	現代アートと地域再生—サイトスペシフィックな芸術活動による地域の変容—
仲村明代	地方中枢都市におけるシビックプライドの受容の可能性 —福岡市における都市再生を契機としたシビックプライドの比較検討—

②-D 他セクターとの協働による文化開発(cultural development through alliances with other sectors) ●座長：河島伸子 討論者：八木 匡

Guido Ferilli et al	Open Societies and Social Sustainability: Toward a new synthetic index for the emergent world order
Hsiang-Yung Feng and Hung-Chia Tsai	Spatial Representation of Literary in City Marketing and Tourism
HwiJung Kim	Making Creative Connections: Developing the arts and business relationship model through changing cultural policy landscape

①-E 地域開発と文化(culture and local development) ●座長：中谷武雄 討論者：クラマー教授

Yi-Ching Liu and Hsiu-Tyan Chuan	A Study of Taiwan Local Cultural Museums' Developments
Katja Ruutu	Creative Art Centers in St Petersburg and Moscow
Shou-Cheng Lai and Yi-Chin Lee	Cultural Festivals, Cultural Industries and Cultural Capital: The case of the Kaohsiung County international puppet theatre festival in Taiwan

分科会③

7月4日  
(日)

13:30  
16:25

③-A アートイベント・プロジェクト ●座長：草加叔也 討論者：伊藤裕夫/片山泰輔

谷口文保	地域福祉施設と大学のコラボレーションを通じたアートプロジェクトの企画運営と評価
児島理華/ 藤原旅人 松本明浩	創造としての「無償」をテーマとした市民参加型アートプロジェクトの評価と課題 ～フクオカ・リアリー・リアリー・フリーマーケットを通して～
國盛麻衣佳	産炭地の矜持再生をめざしたアートプロジェクトの創出 —石炭・石炭灰えのぐ「COAL PAINT」を用いたアートワークショップの評価と課題—
高倉貴子	文化資源としての水辺空間・河畔界隈を生かした市民主体のまちづくり活動の創出 ～大分県日田市における、お雛まつり、水面の盆、B-Café 設立を通して～

③-B 文化・スポーツと人・社会 ●座長：中川幾郎 討論者：友岡邦之/熊倉純子

川井田祥子	障害者の芸術的表現による社会的包摂に関する研究
-------	-------------------------

分科会③

7月4日  
(日)

13:30

16:25

砂田和道	児童の創造性開発教育へ向けた教育プログラムの考察 ～ラ・フォル・ジュルネ・オ・ジャポン「熱狂の日」音楽祭の教育プログラムを例に～
切原有一／ 児玉 徹	文化的公共財としてのスポーツの可能性と課題について —Jリーグクラブとプロ野球球団の事例の比較分析を通して—
上野信子	創造の場に求められる環境条件に関する研究 —創造活動者の内発的動機による創造活動に着目して

③-C 創造的都市 ●座長：藤原恵洋 討論者：吉本光宏

清水裕子	英国の近隣地区の社会的再生における芸術文化の果たす役割について
河島伸子	文化多様性と市場構造—メディア、エンタテインメント経済学からの検討
美山良夫	文化施設マネジメントにおける「観光」の現状と課題
萩原雅也	創造都市に向けた「創造の場」についての理論的考察

③-D 歴史に見る文化 ●座長：藤野一夫 討論者：徳永高志／松田芳郎

金城ふみ子	近代統一国家の形成過程における言語改革と教育制度の創設による統一言語形成への影響： 御雇外国人から国民教育への転換の事例としての札幌農学校と有島武郎
近藤太一	幕末薩摩藩の財政改革の今日的意義 —茶坊主 調所笑左衛門 広郷の財政・文化総合政策—
南 里実	化政期・京都における音楽活動の文化循環—地歌箏曲を事例とした検討
坂部裕美子	寄席興行データから見る落語家の世代交替

③-E 実証研究(empirical studies) ●座長：後藤和子 討論者：クラマー教授(1) 八木 匡(2) 勝浦正樹(3)

八木 匡	The Role of Art in a Creative Economy -Testing the Relationship between Emotional Intelligence and Creativity-
Wei-jen Wen and Tsung-Chi Cheng	Arts Attendance in Taiwan
Juan Prieto-Rodriguez and Javier Suarez-Pandiello	Reading as a Leisure Activity, Evidence from Spain

エクスカージョン ❖ 7月2日(金) 18:00-20:00

神戸異人館「英国館」を貸し切りでミニソプラノリサイタル (濱崎加代子 関西二期会所属)

参加料● 5,250円 (飲み放題、バイキング料理込み)

※参加申込方法につきましては別紙の案内をご参照ください。

記念講演 ❖ 7月3日(土) 14:15-14:55

「地域に広げる芸術文化活動

—兵庫県立芸術文化センターの役割と活動状況から—

藤原正治 (兵庫県立芸術文化センター副館長)

基調講演 ❖ 7月3日(土) 14:55-15:35

「舞踊家・自由業の生成—ミクロ芸術統計の根底」

若松美黄 ((社)現代舞踊協会理事長、筑波大学名誉教授)

パネルディスカッション ❖ 7月3日(土) 16:00-17:45

「ミクロ統計データを活用した文化経済学の新たな展開」

[司会] 周防節雄 (兵庫県立大学教授)

[パネラー] 松田芳郎 (青森公立大学教授、一橋大学名誉教授)

山口幸三 ((独)統計センター情報管理課長、元一橋大学准教授)

勝浦正樹 (名城大学教授)

大和 滋 ((社)日本芸能実演家団体協議会 芸能文化振興部長)

会員各位

## 学会設立 20 周年事業にむけて寄付のお願い

文化経済学会<日本>会員の皆様にはご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、既に、昨年度の可見大会においてもご報告申し上げますように、平成 24 年度には学会設立 20 周年を迎えることが出来ます。学会がこれまで恙なく発展してまいりましたのは、ひとえに会員の皆様のご支援とご尽力の賜物と深く感謝いたしております。

20 周年を契機に、文化経済学会<日本>はさらなる飛躍を目指して、大きく、二つの事業を計画しております。

一つは、本学会と緊密な関係にある国際学会 The Association for Cultural Economics International の研究大会の日本誘致です。これは本学会の意を受け、後藤和子副会長をはじめとする会員の皆様の熱心な誘致活動により、昨年 6 月に 2012 年大会を日本で行うことが決定しました。会場は京都・同志社大学、時期は 6 月、2012 年の国内大会と並列開催を予定しております。通常は合衆国とヨーロッパにて交互開催であり、ACEI での発表を距離や経費の面から控えておられた本学会員の皆様には、参加は ACEI 研究大会への別途登録とはなりますが、気軽に参加していただくことができるまたとないチャンスであります。また、海外からのゲストを交えて並行開催する予定の本学会大会においても会員の皆様が参加できる連携プログラムを用意してゆきたいと考えております。

二つ目は 2011 年秋の講演会です。少し時期が早いですが、この講演会を会員の皆様はもとより、社会に広く文化経済学会<日本>の活動をアピールするための

20 周年事業と考え、充実した内容を検討しております。会場は青山学院大学およびその周辺を予定し、通常の講演会のみならず、様々な分野、関心の会員の皆様が多様な形で参加していただける企画を用意したいと存じます。

このように二つの充実した 20 周年事業を検討しておりますが、現在の会費からの積立金のみでは十分な活動が展開できません。つきましては、慎重に予算を検討した結果、400 万円程度について、広く寄付を募ることを理事会にて決定いたしました。

各種企業、各種団体への寄付のお願いも鋭意行っべく所存ではありますが、非常に経済情勢が厳しい昨今、学会外からの寄付をいただくには会員の皆様のご協力も重要となります。従いまして、2010 年度と 2011 年度の 2 回にわたり、会費納入の折に、会員の皆様には各年一口 2000 円以上のご寄付を、理事の皆様には各年 3 口 6000 円以上のご寄付をお願いさせていただきたくありませんか。学会員の皆様からのご寄付は総額 200 万円程度を目標としております。何卒ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

ご賛同いただきました場合は、添付の会費納入用紙の寄付欄に口数と金額を記入していただき、会費納入と合わせてお納めいただきますようお願い申し上げます。

2010 年吉日

会長 佐々木雅幸  
副会長 後藤和子  
理事長 清水裕之

❖国際文化経済学会 2012 年日本開催に対して、2010 年 5 月 10 日現在で、下記の方々のご賛同をいただいております。

セゾン文化財団常務理事 片山正夫 資生堂名誉会長 福原義春 資生堂企業文化部長 一橋 忠 (敬称略)  
ポーラ文化財団ポーラ美術館館長、元文化庁長官 植木 浩  
静岡県コンベンションアーツセンタ格蘭シップ館長、元 NHK 解説委員 田村孝子  
(株)パリュークリエイト パートナー 佐藤 明 コモンズ投信(株)会長 波澤 健 (株)ベネッセホールディングス 副社長 福原賢一  
能楽金剛流宗家 金剛永護 日本放送協会会長、企業メセナ協議会理事長 福地茂雄  
東京都生活文化スポーツ局文化振興部長 桃原慎一郎 東京都生活文化スポーツ局文化振興部文化政策担当副参事 松下裕子  
外務省大臣官房審議官 井出敬二 アーティスト ツトム・ヤマシタ アーティスト アキ・クロダ  
エフ・エム京都 (a-station) 社長 吉田 進 (株)トーセ代表取締役社長兼 CEO 斎藤 茂 一橋大学名誉教授 田中克彦

## 理事会報告

### 第Ⅷ期第8回理事会

2010年4月2日(金) 18:30～20:30 於) 芸能花伝舎 出席  
18名 委任状14通 事務局2名

#### <第1号議案>会員の入退会について [別添冊子]

入会 19名了承

入会非承認 1名 布仁門徳氏は専門分野から他学会が適しているのではということで、非承認となった。

退会 4名了承

自動退会者15名(4/6事務局より理事長に報告:3年以上会費滞納者の為会員資格喪失)

#### <第2号議案>役員選挙について

3月19日(金)に、選挙管理委員である川崎賢一理事、大和滋理事の立会いの下で開票が行われた。

副会長については清水裕之氏(名古屋大学)が投票総数145票中、106票の得票数で選出され、承認された。

個人理事 9期の理事35名ということを基準に、得票数10票までの30名と、実務面、地域などを考慮して山田太門氏、若松美黄氏、井口典夫氏、小野田泰明氏、藤原恵洋氏、増淵敏之氏、澤村明氏の7名を合わせて37名の方を理事とすることが承認された。(投票総数721票)

個人監事 投票総数141票中、個人監事の得票上位より理事との重複を除き、吉田和男氏に個人監事をお願いすることとなった。

団体理事 (社)日本芸能実演家団体協議会 / (社)文化科学研究所 / (株)資生堂

団体監事 (社)企業メセナ協議会

#### <第3号議案> 2009年度事業報告・2010年度事業計画(案)について

2009年度の実業報告および2010年度の実業計画(案)が事務局より報告され、一部修正・追加の他は概ね了承を得た。

修正…2010年事業計画第5項2) →アーカイブ化の継続について検討をする。

追加…2010年事業計画第5項4) →編集委員による文献目録の整理を含め当学会の“回顧と展望”にとりかかる。

#### <第4号議案> 2010年神戸大会について

有馬理事より神戸大会について、進捗状況の報告がなされた。

4月2日エクスカーションに計画されている兵庫県立センターのホール見学で、大・中・小の3つのホールの内、大ホールについては、公演が入り見学できないことになった旨伝えられた。

また、パネルディスカッションの出演者の内、総務省統計局関係者への出演交渉については、大会委員長の周防氏により、引続き交渉されているとの報告があった。

その他、新会長講演について、通常総会の冒頭に行っていたが、今回はスケジュールの関係で初日に行くこととなった。また、新会長自身により日本語・英語の2ヶ国語にて行う旨が伝えられた。

※修正…タイムテーブル7月3日(土)会長講演開始時間は13時40分～14時10分

分科会の枠組み及び座長・討論者(案)が発表された。

討論者について、スケジュール的に可能な方が少なかったこともあり、各枠1名の案が出されたが、討論者の負担を鑑み発表者4組の分科会については討論者を2名置くこととし、追加候補者の人選を行った。

また、一応は座長・討論者として担っていただくが、各枠内にて検討され座長・討論の隔てをはずしご担当頂いても構わないとした。尚、理事会出席者からは全了承を得た。

#### ▶討論者の追加候補・変更人選

##### 分科会①

A: 松田氏 → 有馬氏に変更

B: 中尾氏(静岡文芸大) 追加候補

C: 小山氏(芝浦工大) 追加候補

D: 工藤氏の討論を大月氏に依頼

E: (英語) 変更なし

##### 分科会②

A: 小林氏(北海道) 追加候補

B: 2名の座長候補の内どちらかに依頼

C: 発表3名の為変更なし

D: (英語) 変更なし

E: (英語) 変更なし

##### 分科会③

A: 片山氏(静岡文芸大) 追加候補

B: 熊倉氏を第1候補、山田(太)氏を第2候補

C: 駄田井氏(九州) 追加候補

D: 松田氏を追加

E: (英語) 変更なし

#### <第5号議案> 2010秋の講演会(新潟)について

担当の江口氏のご欠席の為、事前提出された資料から各確認がなされた。

スケジュールについて、現段階では秋の交通関係の時刻ダイヤが読み難いところではあるが、予測段階においても、当日入りで講演会開始時刻に間に合わないスケジュールとなっている為、開始時刻を30分繰り下げる等、再度スケジュール設定の見直しを依頼することとなった。

#### <第6号議案> 20周年事業について

(1) 寄付金関連 \*他に別添資料あり【寄付金趣意書】

別添資料の『寄付金趣意書』について理事長より読み上げ確

認がなされ、寄付のお願いについて何処にお願いするのが良いかなど、様々な提案がなされると共に、役員については率先して寄付及び交渉をお願いしたい旨が伝えられた。

広告収入についても話し合わせ、金融・放送・企業からは難しいのではないかと意見もあったが、メーカーはやはり広告重視であること。また、アートマネジメント系の大学に対し広告(校名掲載)をとれないかのご意見も出された。

文化経済学会が発足された当時は大学にアートマネジメントの分野さえ無かった。偏に当学会が発足したことから人々の興味関心を受けるようになったと言っても過言ではないだろう。現在では各方面にて大きな役割を果たすようになってきているというのも、一つの成果ではなからうか。そういったことから、例えば20周年記念事業のパンフレットなどにアートマネジメント系の学校に広告依頼をとってみるのも双方にとって有益ではないか。とのご意見も頂いた。

#### 【寄付金趣意書】

1頁本文 11行目 (誤) 2011年6月 → (正) 2012年6月

7頁「20周年記念事業概算予算書」の2.支出の項目について、20周年記念出版の項目を下記の通り追加し、当初案の国内企画関連事業費200万から割当てる事とした。(変更点は斜体部分)

2. 支 出		
	国際文化経済学会	8,100,000円
	国内企画関連事業	1,000,000円
	20周年記念出版費 (追加)	1,000,000円
	予備費	400,000円
	小計 (2)	10,500,000円

他、内容については概ね了承とされたが、引続きご意見なども承り、仕上げていく旨が伝えられた。

(2) 国際学会誘致進捗状況 (賛同者呼びかけについてなど)

後藤副会長より資料の通り報告がなされた。尚書面の最下部2行の学術会議関連の文面は訂正とし、学術振興会に助成申請を行う。また、東京都生活文化スポーツ局に支援交渉をしている旨が報告された。

(3) 国内記念事業進捗状況について、ご担当の増淵理事より報告がなされ、下記①～⑩項目について、7月の理事会までに報告できるよう進めることが確認された。

- ①日時の決定 → 金・土の2日間がいいのではないかと。国連 Day や東京都内で実施される文化イベントに合わせた日程設定
- ②20周年の回顧的なものは本事業とは切り離す
- ③テーマはクリエイティブエコノミー+文化政策(劇場法関連など) → タイトル案
- ④予算は大枠100万円
- ⑤エクスカージョンは青山学院界限でもいいのでは(Tokyo-WonderSiteなど)。
- ⑥クローズドイベントは有料、オープンイベントは無料を検討

⑦学生のコンペを実施してもいいのではないかと。

⑧他学会との連携を模索してもいいのではないかと。

⑨会員獲得、関連業界を巻き込む方法などをかんがえてもいいのでは。

⑩クラブ、ライブなどの実施も検討すべき

また、各20周年記念事業を通しての「共通のキャッチフレーズ(テーマ)」を設けてはどの意見が出たのを受け、様々な案が出され引続き検討していくこととなった。

#### 入退会情報 (敬称略)

●第IX期第8回理事会(2010.4.2)にて承認

**入会** 安達則嗣(安達公認会計士) / 梅本 克((財)国際東アジア研究センター) / 奥村真司((株)フォーム マネージャー) / 奥山雅之(東京都庁) / 加藤広祐(名古屋大学大学院1年) / 加藤優希(兵庫県立大学修士課程2年) / 切原有一(九州大学大学院修士課程1年) / 國盛麻衣佳(九州大学大学院修士課程1年) / 兒島理華(九州大学大学院院生) / 重木昭信((株)NTTデータ 顧問) / 田川伸一(法政大学大学院博士課程後期2年) / 田中裕二((財)東京都歴史文化財団 東京都江戸東京博物館 学芸員) / 谷口文保(神戸芸術工科大学専任講師) / 陳 愚(名古屋大学大学院博士前期課程) / 仲村明代(九州大学大学院博士後期課程1年) / 中村雅之(公益財団法人横浜市芸術文化振興財団) / 古隅弘樹(兵庫県立大学准教授) / 葉 宇傑(九州大学大学院修士課程1年) / 李 然(九州大学大学院修士課程1年)

**退会** 佐々木園子 / 吉川 淳 / 佐藤正治 / 小林正義 / 他 自動退会 15名

#### ご寄贈ありがとうございました。

「創造性が都市を変える」横浜市・鈴木伸治著、(株)学芸出版社、2010年4月<出版社寄贈>

会員情報登録・変更用紙のご返送がお済みでない会員のみなさまは、至急FAXもしくはメールにて事務局までご連絡ください。

季刊「文化経済学会」No.73  
2010年5月25日発行  
ISSN 0918-3787

発行 文化経済学会(日本)  
発行人 佐々木雅幸  
編集人 清水裕之  
〒160-8374 東京都新宿区西新宿6-12-30  
芸能花伝舎2F (社)芸団協内  
電話 03-5909-3068 FAX 03-5909-3061  
E-mail: info@jace.gr.jp  
URL: http://www.jace.gr.jp/

©2010, Japan Association for Cultural Economics